全国いか加工業協同組合

全国いか組合報

No.640

令和3年10月1日発行

スルメイカ　FAO名（英）：Japanese flying squid　市場名：マイカ，マツイカ，ムギイカ，トンキュウ，ガンゼキ（地方名）

ML 30cm。外套膜は筋肉質で外套膜の背中線上に暗色の縦帯がある。鰭は幅広の菱形である。漏斗溝には縦溝があるが、側部のポケット様襞はない。漏斗軟骨器が⊥型。腕の大吸盤角質環には鋭い歯があるが、基部寄りの縁は平滑。雄の右Ⅳ腕の先端部はやや偏圧され櫛歯状の肉嘴列となる。触腕の大吸盤には鋭い円錐形の歯と低い板状の歯とが交互に並んでいる。最南端の記録はホンコン。北限はカナダの記録がある。

新編 世界イカ類図鑑 P.189より抜粋（奥谷喬司著／全国いか加工業協同組合刊）［写真：堀川博史］

組合報第640号　目次

令和3年（2021年）10月

全いかニュース

＜漁況関連情報＞
2021年度　第2回　太平洋スルメイカ長期漁況予報 …… 1

＜組合からの関連情報＞
1. いか関連 新聞記事（抜粋） …… 13
2. シーフードショー出展のご案内 …… 19

統　計

I.　2021年7月分　全国イカ水揚集計表（全漁連） …… 20

II.　いか類輸入　国別通関実績　2021年8月　―財務省貿易統計より― …… 21
(1) 冷凍いか（除くもんごう）
(2) 乾燥・塩蔵・塩水漬け
(3) 調整品

III.　農林水産統計 …… 24
1. 産地水産物流通統計　令和3（2021）年7月
(1) 月別上場水揚量・価格
(2) 累積上場水揚量・価格
(3) 漁港別水揚量・価格
2. 冷蔵水産物流通統計　令和3（2021）年7月
(1) 月間入・出庫量及び月末在庫量

国立研究開発法人
水産研究・教育機構

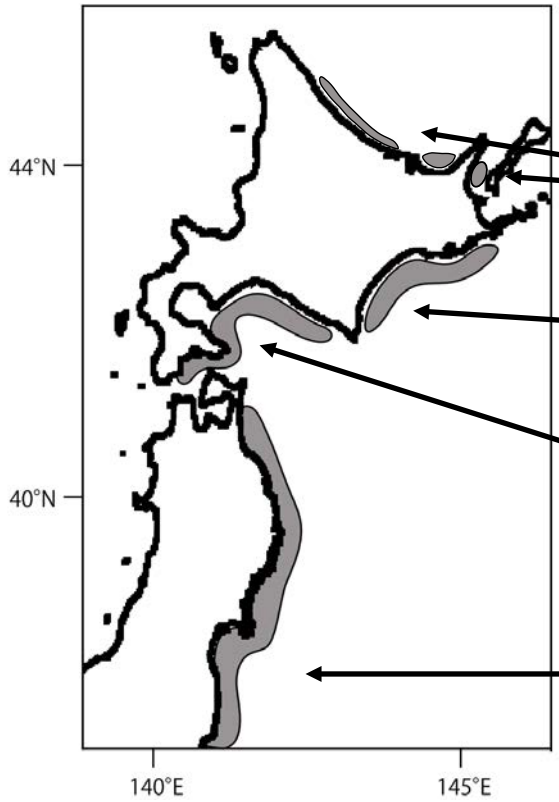
プレスリリース

２０２１年９月３０日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

２０２１年度 第２回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し（2021年10月～12月）のポイント



スルメイカの来遊量は、根室海峡～オホーツク海および津軽海峡～道南太平洋海域では前年並、道東太平洋海域および常磐～三陸海域では前年を下回る。

根室海峡～オホーツク海：
来遊量は前年並。
魚体は前年並。

道東太平洋海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前年並。

津軽海峡～道南太平洋海域：
来遊量は前年並。
魚体は前半は前年並、
後半は前年より大きい。

常磐～三陸海域：
来遊量は前年を下回る。
魚体は前年並。

問い合わせ先

国立研究開発法人水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜）　森永
　　浮魚資源部（横浜）　大島、加賀
電話：045-788-7615、ファックス：045-788-5001
当資料のホームページ掲載先URL
http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease

2021 年度 第 2 回 太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2021年10月～12月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：主に冬季発生系群（2021年級群）

1. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

（1）来遊量：前年を下回る。

（2）漁期・漁場：漁場形成は散発的となる。

（3）魚体：前年並

2. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）

（1）来遊量：前年並。

（2）漁期・漁場：漁期の中心は前年と同様10月までとなる。

（3）魚体：前年並。

3. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

（1）来遊量：前年並。

（2）漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

（3）魚体：前半は前年並、後半は前年より大きい。

4. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

（1）来遊量：前年を下回る。

（2）漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

（3）魚体：前年並。

Ⅰ　予報の説明

2021 年 8 月～9 月に実施した漁場一斉調査とイカ類南下期資源調査[1)]の結果（以降、いか釣り調査と総称する）、および 7 月～8 月（一部 9 月を含む）の漁況経過を主要な情報として太平洋における 10 月～12 月のスルメイカの来遊量を予測した。その結果、以下の通り、根室海峡～オホーツク海域、津軽海峡～道南太平洋海域では前年並、道東太平洋海域、常磐～三陸海域では前年を下回ると予測される。

1.道東太平洋海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。道東周辺海域（42°N 以北、143°E 以東）でのいか釣り調査による平均 CPUE（いか釣り機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）は前年を下回った。道東における 8 月の小型いか釣り船 CPUE（1 日 1 隻当たり水揚げ量）は、8 月下旬に花咲港を中心とした好漁により前年を上回った。しかしその後漁況は下降し、9 月上旬以降の主要港における CPUE は前年を下回った（表 1）。以上のことから、道東太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測される。魚群の分布には偏りが見られるため漁場形成は散発的になると考えられ、魚体サイズは、いか釣り調査の結果から前年並の個体が主体になると考えられる。

2.根室海峡～オホーツク海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。釧路以東（144.4°E 以東）でのいか釣り調査による CPUE は前年を下回った。北方四島周辺の太平洋側の海域における9月中旬までの平均海表面水温[2)]は7月中旬～8月上旬までは前年より高く、8月中旬～9月中旬は前年より低めとなっており変動が大きかった。10月までの予測水温[3)]（図1）によると前年並と思われるため、スルメイカの太平洋からオホーツク海へは水温環境がやや不安定であるものの、前年と比較して回遊しやすい環境であったと考えられる。以上のことから、根室海峡～オホーツク海域への来遊量は、前年並と予測される。オホーツク海沿岸の10月の水温は前年並と予測されているため、漁期は前年と同様に10月までと予測される。魚体サイズは、いか釣り調査による釧路以東での結果から前年並の個体が主体になると考えられる。

3.津軽海峡～道南太平洋海域

この海域の漁獲対象資源は、津軽海峡～道南太平洋海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられる。津軽海峡～道南太平洋周辺海域（41°N 以北、143°E 以西）におけるいか釣り調査の CPUE は前年を上回った。函館港と大畑港での 8 月の小型いか釣り船 CPUE は前年を上回り、浦河港では水揚げがなかった（表 1）。9 月以降の函館港での小型いか釣り船 CPUE は前年を下回り、大畑港では前年並、浦河港では前年を上回り、地域差が大きいが、全体としては前年並みであった（表 1）。また、前述の通り、道東太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測されている。以上のことから、津軽海峡～道南太平洋周辺海域への来遊量は前年並と予測される。魚体サイズは、いか釣り調査の結果から前半は前年並で、後半は前年のような小型個体が見られていないため、前年より大きい個体が漁獲の主体になると考えられる。

4.常磐～三陸海域

この海域の漁獲対象資源は、常磐～三陸海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられ

る。三陸周辺海域（41°N以南、143°E以西）におけるいか釣り調査では漁獲が無く、前年（0.3尾）並の低い水準であった。青森県、岩手県の主要港での8月の小型いか釣り船CPUEは前年を下回り、宮城県主要港では前年並であった（表1）。以上のことから、常磐～三陸海域に分布する群は前年を下回ると考えられる。また、前述の通り、道東太平洋海域への来遊量は前年を下回ると予測されている。さらに、10月下旬の予測水温[3]（図1）によると、三陸沖に暖水塊が形成されると予測されており、道東太平洋海域からの来遊が妨げられる可能性がある。したがって、常磐～三陸周辺海域への来遊量は前年を下回ると予測される。いか釣り調査で三陸周辺海域での漁獲が無かったため、三陸周辺海域における魚体サイズの前年との比較には、漁業情報サービスセンターによるスルメイカ漁況・市況情報を利用した。その結果、前年並の個体が主体になると考えられる。

[1] 北海道立総合研究機構釧路水産試験場が独自に実施。

[2] 気象庁の札幌管区気象台が公表している日別海域平均海面水温（http://www.jma-net.go.jp/sapporo/kaiyou/engan/engan.html）

[3] 国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム（FRA-ROMS）による予測水温

Ⅱ　調査結果

8月～9月に実施されたいか釣り調査の結果（図2）、調査海域全体の平均CPUEは0.39尾で、前年（0.70尾）を下回った（図3）。海域別に見ると、道東周辺海域では0.06尾であり、前年（1.80尾）を下回った。道東周辺海域のうち釧路以東では0.02尾であり、前年（0.31尾）を下回った。津軽海峡～道南太平洋周辺海域では1.85尾であり、前年（0.68尾）を上回った。三陸周辺海域では漁獲がなく、前年（0.03尾）と同様の低い分布密度であった。

漁獲物の外套背長組成の最頻値は19 cmにあり、前年（20 cm）並であった（図4）。海域別に見ると、道東太平洋海域での最頻値は22 cmで前年（21 cm）並であった。また、道東太平洋海域のうち釧路以東においても同様であった。津軽海峡～道南太平洋周辺海域では前年は15 cmと20 cmが高頻度の二峰型であったが、2021年は小さいサイズが見られず最頻値が19cmの単峰型であった。三陸周辺海域では漁獲が無かったため前年との比較はできない。

Ⅲ　各海域の漁況経過

2007年以降の太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）における年間漁獲量[1]は7万～16万トンで推移していたが、2018年には1.7万トンまで減少した（図5）。2020年は2.2万トンで前年並であった。10月～12月に限定した累計漁獲量は、2007年以降5万～10万トンで推移していたが、2018年に7.4千トンまで減少したがその後やや増加し、2020年は11.7千トンであった。主漁場は常磐以北の太平洋海域であり、来遊経路から常磐～三陸海域、津軽海峡～道南太平洋海域、道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海域に区分される。

2020年10月～12月の常磐～三陸海域における漁獲量（生鮮）は8.2千トン、津軽海峡～道南太平洋海域では2.3千トン、道東太平洋海域では0.6千トン、根室海峡～オホーツク海では0.5千トン（図6）、千葉県以南の海域での漁獲量は40トンであった。2015年～2019年の平均に対する比は、常磐～三陸海域では121%、津軽海峡～道南太平洋海域では55%、道東太平洋海域では36%、根室海峡～オホーツク海では15%、千葉県以南の海域では84%であった。

2021年7月～8月の太平洋沿岸域での水揚げ量[2]（生鮮:速報値、一部未集計）は1.0千トンで、前年（2.8千トン）を下回った。そのうち、常磐～三陸海域の主要港では0.5千トンで、前年（2.2千トン）を下回った。

津軽海峡～道南太平洋海域の主要港の水揚げ量は一部集計中だが、現状では 0.2 千トンで、前年（0.5 千トン）を下回っている。道東太平洋海域の主要港では 328 トンで、前年（28 トン）を上回った。根室海峡～オホーツク海では 2 トンで、前年（14 トン）を下回った。千葉県以南の主要港では 13 トンで、前年（32 トン）を下回った。なお、参画道県における代表的な漁況経過を表 1 に示した。

[1] 主要港漁獲量を漁業・養殖業生産統計年報の値で引き延ばしているため、図 7、図 8 を含めた漁獲量は全て推定値である。

[2] 水揚げ量は単純積み上げした数値。

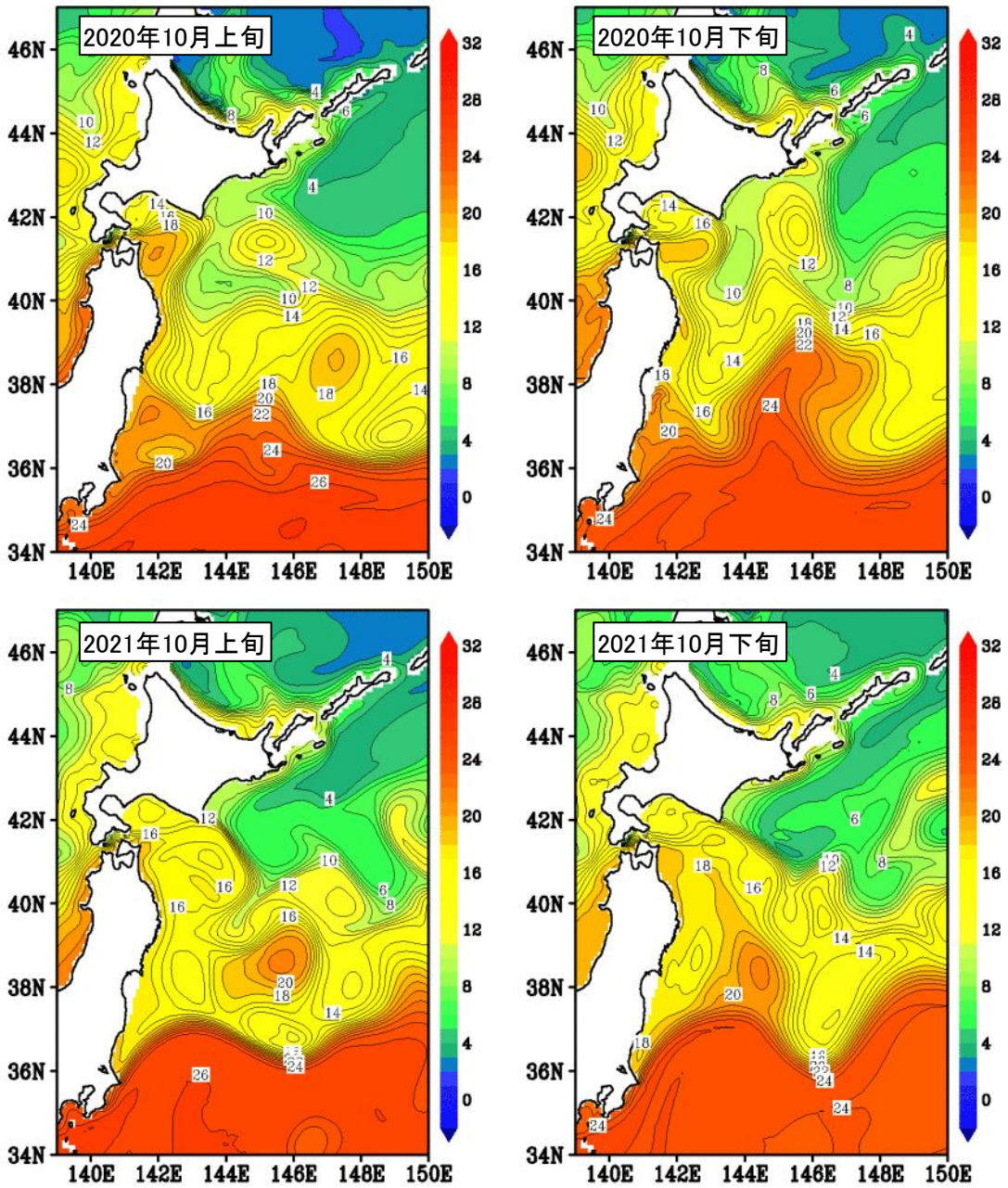


図1.　海況予測システムFRA-ROMSによる2020年、2021年の10月上旬と下旬の深度50 mにおける水温（2021年は予測水温）

深度50 mはスルメイカの代表的な分布深度

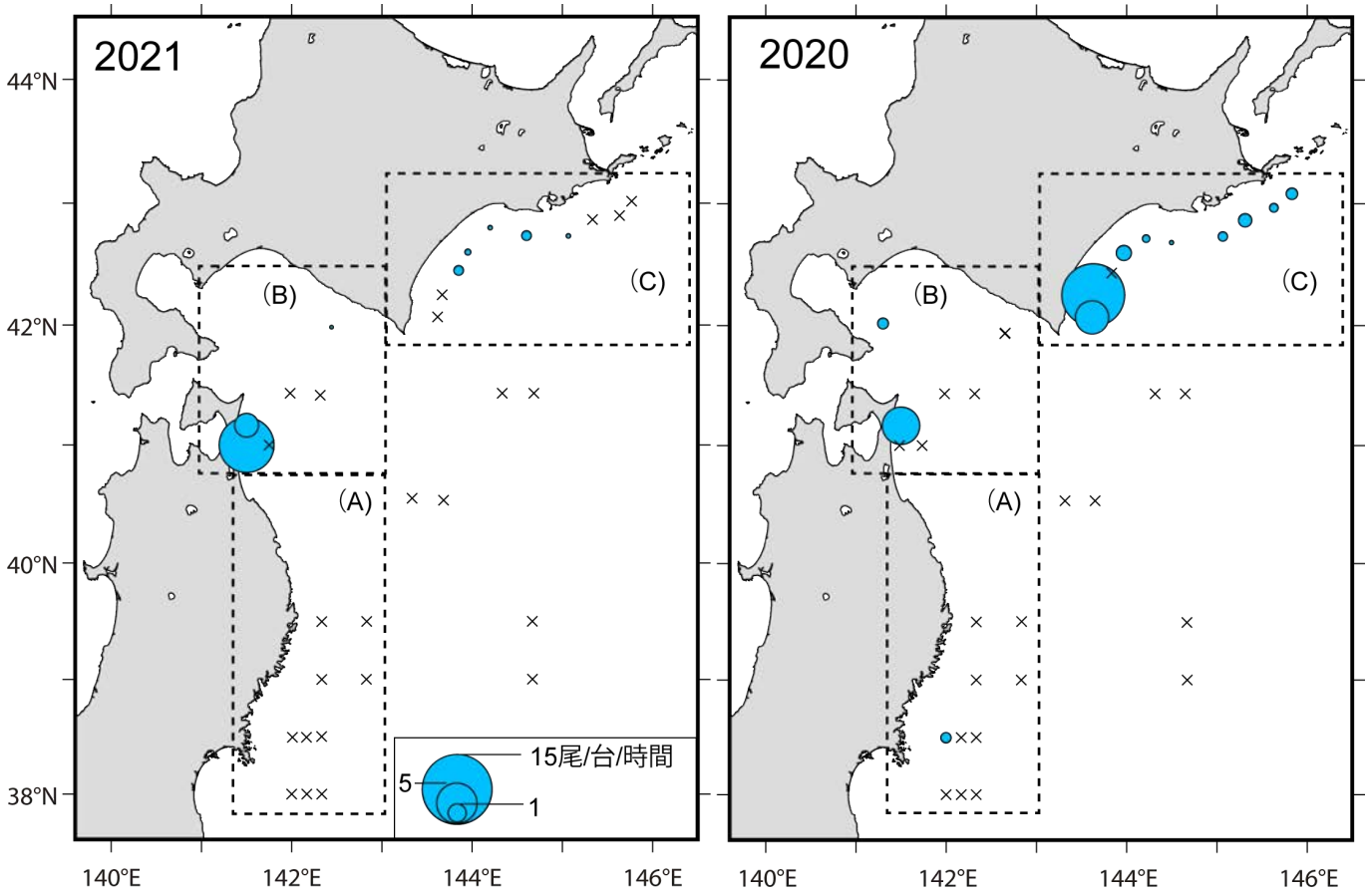


図2.　太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布

2021年8月～9月（左図）、2020年8月～9月（右図）のいか釣りによるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布を左図右下の凡例にしたがって示す（×は漁獲なし）。破線で囲まれた海域は（A）常磐～三陸周辺海域、（B）津軽海峡～道南太平洋海域、（C）道東太平洋海域および根室海峡～オホーツク海域における来遊量予測の根拠となった調査海域を示す

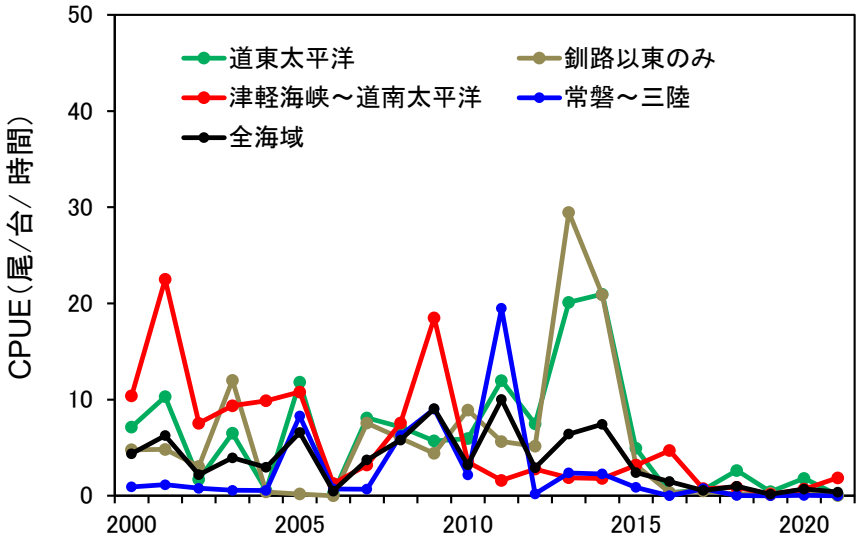


図3.　太平洋におけるいか釣り調査による海域別CPUEの年推移

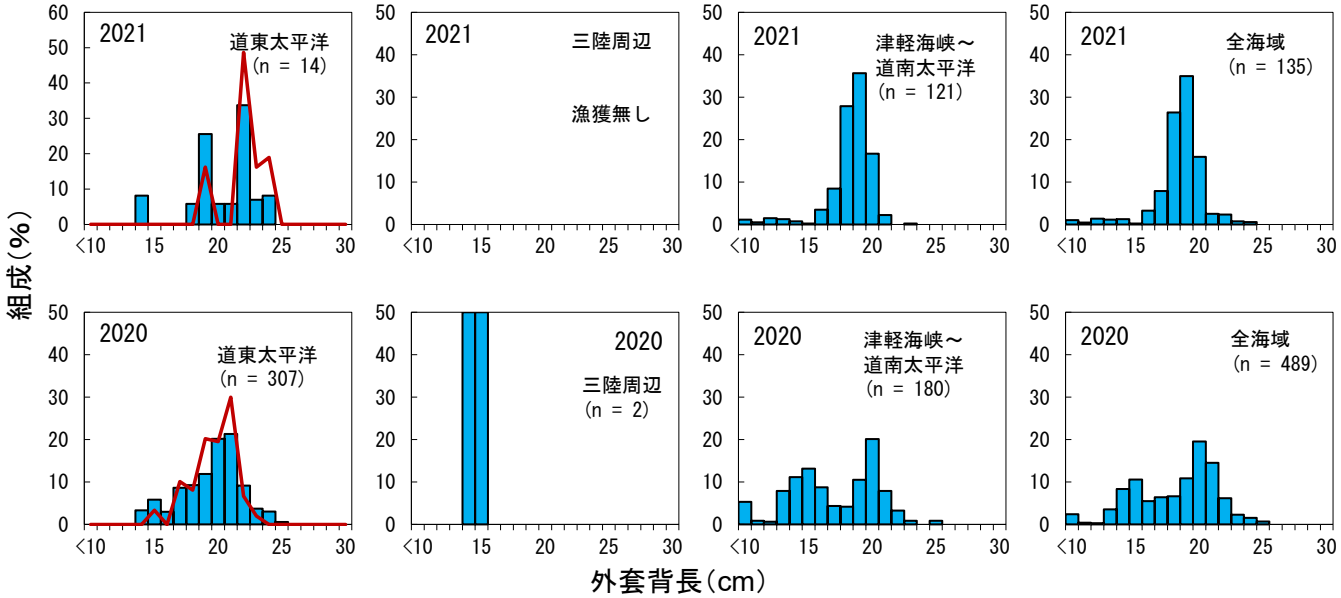


図4.　太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカ外套背長組成の結果

nは測定尾数を示し、最左図の赤線は道東太平洋海域の釧路以東のみの結果を示す

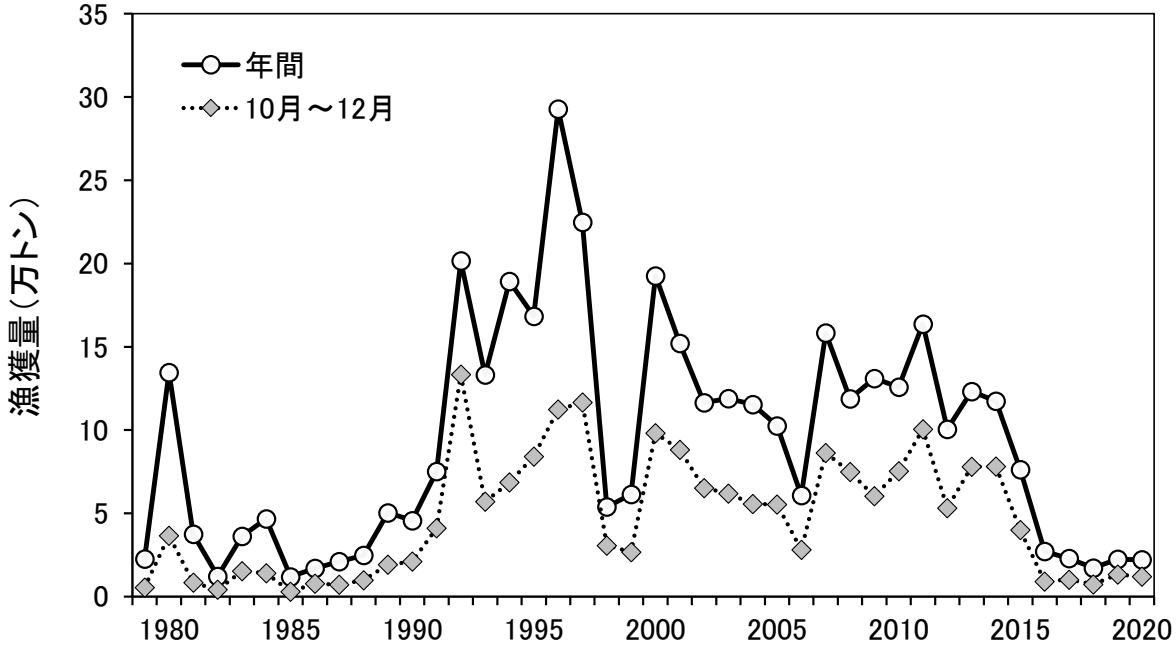


図5.　太平洋（根室海峡～オホーツク海を含む）におけるスルメイカの年間漁獲量（暦年集計）と10月～12月の累計漁獲量の推移

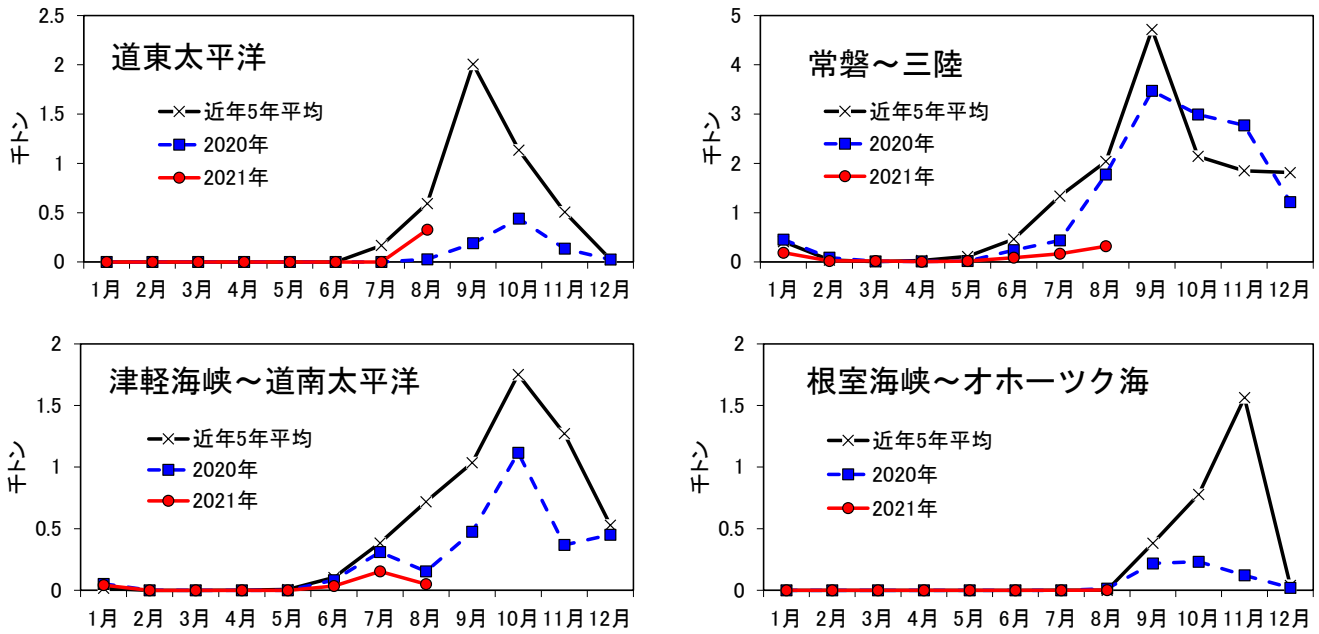


図6.　スルメイカの月別海域別の漁獲量（生鮮）

近年5年平均は2015年～2019年の平均

（いか釣り・定置網・底びき網・まき網）

表1. 漁況経過（2021年7月～8月、一部9月・未集計・暫定データ含む）

	漁況経過
北海道 道東	太平洋側での初水揚げ日は8月4日（花咲港、釣り）で、前年（花咲港で8月10日、釣り）より早かった。 道東主要港での釣りによる8月の水揚げ量は263トンで前年（24トン）を上回り、CPUEは前年比322%であった。一方、9月上旬の水揚げ量は概算25トンで、前年（56トン）を下回り、CPUEも前年比45%となった。 羅臼港では8月27日に釣りによる初水揚げがあり、前年（8月25日）並であった。釣りと定置網による9月上旬までの水揚げ量は概算8トンで前年（40トン）を下回った。
北海道 道南	函館港での釣りによる8月の水揚げ量は36トンで前年比187%、CPUEは前年比197%であった。9月上旬の釣りによるCPUEは前年を下回った。 浦河港では9月1日に釣りによる初水揚げがあり、前年（8月6日）より遅かった。9月中旬までの釣りによるCPUEは前年を上回った。 南茅部での定置による7月の水揚げ量は78トンで前年比36%であった。
青森	大畑港での釣りによる8月の水揚げ量は309トンで前年比156%、CPUEは前年比120%であった。9月上旬の釣りによるCPUEは前年並であった。 白糠港での釣りによる8月の水揚げ量は80トンで前年比58%、CPUEは前年比68%であった。 八戸港での釣りによる8月の水揚げ量は113トンで前年比33%、CPUEは前年比57%であった。まき網による8月の水揚げ量は80トンで前年比8%であった。
岩手	岩手県主要港での釣りによる8月の水揚げ量は25トンで前年比11%、CPUEは前年比16%であった。定置網による8月の水揚げ量は10トンで前年比86%であった。
宮城	宮城県主要港での釣りによる8月の水揚げ量は2.1トンで前年比66%、CPUEは前年比104%であった。定置網による8月の水揚げ量は0.3トンで前年比38%であった。底びき網による8月の水揚げ量は9トンで前年比85%であった。
福島	7月～8月は底びき網漁業の禁漁期間である。
茨城	7月～8月は底びき網漁業の禁漁期間である。
千葉	主要港での釣りによる8月の水揚げはなかった。定置網による7～8月の水揚げは0.6トンで前年比21%であった。
神奈川	間口港における釣りによる8月の水揚げは98kgで前年比67%、CPUEは前年比101%であった。
静岡	仁科港での釣りによる8月の水揚げ量は0.2トンで前年比33%、CPUEは前年比50%であった。
三重	奈屋浦港でのまき網による7～8月の水揚げ量は40kgで前年比5%であった。
和歌山	すさみ港での釣りによる8月の水揚げ量は5トンで前年比99%、CPUEは前年比71%であった。
高知	釣りによる8月の水揚げは無かった（前年は5トン）。

注：CPUEは1日1隻当たり水揚げ量

参　画　機　関

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構
　　水産研究本部
　　釧路水産試験場
　　函館水産試験場

地方独立行政法人　青森県産業技術センター
　　水産総合研究所

岩手県水産技術センター

宮城県水産技術総合センター

福島県水産資源研究所

茨城県水産試験場

千葉県水産総合研究センター

神奈川県水産技術センター

静岡県水産・海洋技術研究所

三重県水産研究所

和歌山県水産試験場

高知県水産試験場

一般社団法人 漁業情報サービスセンター

（取りまとめ機関）
国立研究開発法人 水産研究・教育機構
　　水産資源研究所

＜いか関連　９／１０～　新聞記事の概要（抜粋）＞

みなと新聞（９月９日）

韓国スルメイカ漁ＴＡＣ消化１１％　８月２０日、西海トロール９割増

北海道機船漁業協同組合連合会によると、韓国漁船による自国 EEZ 内の２０２１年漁期（７月～２２年６月）のスルメイカ漁獲量は８月２０日現在、９２７０トンで漁獲可能量（ＴＡＣ）８万３８３０トンの消化率は１１％となっている。

うち、西海トロール（２そう引）が３９６０トンで前年同期比９割増で、ＴＡＣの３５％を消化。今年からＴＡＣ管理に組み込まれた近海網漁船は２４６０トンで全体の４分の１以上を占め、当初枠に留保枠を合算しても消化率が５０％を超えた。

主要漁業の沖合イカ釣は、ロシア政府間協定の操業に参加している漁船もあり、まだ１９９０トンにとどまっているが、前年同期より１０％増の漁獲となっている。

みなと新聞（９月１０日）

８月スルメイカ 日本海中央に分布　石川県が調査「やや多い」

【石川】石川県水産総合センターは８月３１日、４～６日にかけ調査船白山丸でイカ釣調査を行ったと発表した。調査海域は能登半島沿岸、日本海中央部、渡島半島西沖。同センターは「温帯低気圧の影響で３回しか操業できなかった」とした上で、「スルメイカは日本海中央部にやや多く分布していた」とした。

ＣＰＵＥは日本海中央部で１９尾だった。今回の同海域での操業は１回のみで「平年との比較はできないものの、比較的高かった」という。能登半島沿岸と渡島半島西沖では、ＣＰＵＥは０・３～０・４尾と低く、スルメイカはあまり分布していなかった。

スルメイカの魚体サイズを表す外套長の平均値は、日本海中央部で２３・５センチ。前年（１９・５センチ)、過去５年平均（２０・８センチ）より大きめだった。

みなと新聞（９月１３日）

船凍アカイカ 夏漁半減３６００トン見込み　好調の日本海スルメイカに転換

北西太平洋における船凍アカイカ夏漁は多くの船が操業を終えた。９月上旬現在、２隻の中型イカ釣漁船と、大型船１隻のみが操業している状況だ。過去２年、アカイカ夏漁は８、９月の２回帰港・水揚げする２航海操業がベーシックになりつつあったが、今夏漁は漁模様や価格からほとんどの船が１航海を選択し、日本海スルメイカ漁に転換。このため、アカイカ水揚量は前年実績（７１

６５トン）から半減の３６００トン程度を見込む。　価格は現在、平均１キロ４７０円ほどで、シーズントータルが４５０円程度になる見通しだ。　一方、日本海の船凍スルメイカ漁は７月から好調な漁獲が続いている。中型船を中心に大和堆周辺で操業している。１８／２０や２３／２５といった中・大型サイズを中心に好調な漁模様。さらに、今年は小木の船団を中心に１７隻がロシア水域の操業許可を取って操業している。

みなと新聞（９月１４日）

船凍スルメイカ漁　７～８月１割増　大和堆主漁場、露水域でも操業

日本海の大和堆を主漁場に、中型イカ釣漁船による船凍スルメイカ漁が続く。漁業情報サービスセンターによると、７～８月の全国主要港水揚量は前年同期比１割増の１１９０トンと今期は前年を上回るペースだ。また、今期はロシア水域での操業許可を持つ一部の漁船が、大和堆より北部の同国水域で操業している。石川県漁協小木支所によると、同県の漁船は中旬以降、１１隻のうち１０隻が同国水域で操業している。操業許可は１０月１８日まで。

近年、全国主要港の冷凍スルメイカ水揚量は減少傾向が続く。同センターによると、２０１９年は３７２３トン、２０年は５５１９トンと２年連続で１万トンを割った。

みなと新聞（９月１６日）

中国 IUU 漁獲物日本流入の疑い　AIS と聞き取りで発覚

英国の環境団体エンバイロメンタル・ジャスティス・ファンデーション（ＥＪＦ）は８月、大西洋で操業する中国企業の違法・無報告・無規制（ＩＵＵ）漁船から日本に水産物が輸入されているとの報告書を出した。同企業のマグロ延縄漁船７隻のインドネシア人乗組員計１５人へのインタビューによると、地域漁業管理機関で禁じられているサメ種の漁獲、フィニング（フカヒレを獲り魚体を海中投棄する行為）など違法操業と、途上国の船員への２４時間シフトを含む長時間労働や暴力行為、「海に投げ込む」など言葉での虐待、不衛生な食事、賃金未払いなどの人権侵害が常態化。同企業の漁船と運搬船が接触し静岡県清水港に寄る様子も、船舶自動識別装置（ＡＩＳ）で捉えた。日本側の対策次第で、今後の資金調達に影響が出る可能性も指摘した。

みなと新聞（９月１７日）

露スルメイカ漁２１５トン　１２日　トロール船６隻操業

北海道機船漁業協同組合連合会によると、北海道に隣接する南クリル海域の日本のＥＥＺとまたがり資源となるスルメイカを対象としたロシアのトロール漁船による専門操業が、５日から始まった。漁開始から１２日までの漁獲量は２１５トンとなっている。

同海域では現在、６隻がスルメイカ操業をしており、主漁場は色丹島北端沖合で、１２日の漁獲量は７６トンだった。ロシアのトロール漁船による同海域でのスルメイカ専門操業は２０１９年から確認されており、１９年は１万７４００トン、２０年は１万４０００トンを漁獲している。

みなと新聞（９月２９日）

７月生鮮スルメイカ５割減１７００トン　主力産地の石川低調　全漁連まとめ

ＪＦ全漁連のまとめによると、７月の国内のスルメイカ水揚量（生鮮・冷凍含む）は前年同月比３８％減の２４１０トンだった。生鮮物は水揚げが振るわず５３％減の１６９７トンにとどまった。冷凍物は北海道や石川での水揚げがまとまり２・３倍の７１３トンとなった。生鮮物は、日本海地区が５５％減の１１３０トンで平均キロ単価は７３％高の９０８円だった。冷凍物は、北海道で３３％増の２６８トンを水揚げした。日本海地区は３・９倍の４０１トンで、前年同月に水揚げがなかった石川では３４８トンを記録した。平均キロ単価は２円高の６２１円だった。

今期は大和堆周辺などでの漁模様が良く、船凍アカイカ夏漁を終えた漁船は２航海目を行わず船凍スルメイカ漁に切り替えた。操業隻数が増えたことからも、今後について全漁連担当者は「水揚量はここ数年よりも多くなる」と期待を込める。

今年の１～７月累計水揚量は前年同期比３９％減の８０６２トン。１９年比でも２割減となり、先行きに不透明感が残る。

全国スルメイカ7月水揚量

（単位=数量：ﾄﾝ、単価：円/ｷﾛ）

生	7月				1～7月			
	数量	前年比	単価	前年比	数量	前年比	単価	前年比
北海道	**391**	**60%**	**524**	**99%**	**569**	**57%**	**545**	**107%**
大畑	6	75%	794	119%	30	200%	923	108%
八戸	43	14%	615	132%	113	28%	717	141%
久慈・宮古・山田	15	65%	592	151%	32	15%	456	78%
大槌・釜石	6	21%	562	173%	14	40%	478	137%
大船渡・気仙沼	38	224%	674	103%	73	215%	624	97%
石巻・女川	5	33%	448	270%	103	24%	402	108%
小名浜・大津・銚子		—		—	36	100%	400	85%
三陸地区計	**113**	**28%**	**632**	**140%**	**402**	**34%**	**577**	**122%**
秋田	37	37%	676	130%	42	29%	665	129%
山形	41	15%	655	135%	161	23%	681	129%
新潟	142	33%	670	142%	295	39%	636	144%
石川	702	51%	1,346	235%	1,748	39%	1,065	200%
福井	137	102%	739	135%	508	90%	669	113%
京都	1	50%	480	81%	44	129%	418	93%
兵庫	25	44%	738	130%	175	69%	677	133%
鳥取	38	26%	614	123%	426	68%	726	108%
境港		0%		0%	148	172%	753	107%
浜田	6	150%	421	107%	206	101%	567	103%
下関		—		—	57	31%	381	85%
日本海地区計	**1,130**	**45%**	**1,097**	**204%**	**3,810**	**47%**	**846**	**158%**
福岡・唐津	50	172%	445	112%	1,133	80%	582	100%
佐世保・長崎	13	130%	205	72%	246	115%	372	83%
九州地区計	**63**	**162%**	**396**	**108%**	**1,379**	**85%**	**545**	**97%**
生小計	**1,697**	**47%**	**908**	**173%**	**6,159**	**52%**	**733**	**138%**
冷凍	7月				1～7月			
	数量	前年比	単価	前年比	数量	前年比	単価	前年比
北海道	**268**	**133%**	**627**	**104%**	**375**	**156%**	**628**	**92%**
大畑		—		—	2	13%	729	62%
八戸	42	1400%	805	117%	672	94%	670	65%
三陸地区計	**42**	**1400%**	**805**	**117%**	**674**	**92%**	**670**	**65%**
山形	53	51%	602	94%	74	38%	613	75%
石川	348	—	596	—	771	443%	627	65%
日本海地区計	**401**	**386%**	**596**	**93%**	**845**	**228%**	**626**	**71%**
福岡・唐津	2	100%	813	94%	10	34%	863	107%
九州地区計	**2**	**100%**	**813**	**94%**	**10**	**34%**	**863**	**107%**
冷凍小計	**713**	**229%**	**621**	**100%**	**1,903**	**139%**	**643**	**69%**
生・冷凍合計	**2,410**	**62%**	**823**	**155%**	**8,062**	**61%**	**712**	**124%**

＊全漁連まとめ

みなと新聞（９月３０日）　水産経済新聞（１０月４日）

太平洋スルメイカ来遊「下回る」　１０～１２月水研機構予報　道東と常磐―三陸

水産研究・教育機構が９月３０日発表した長期漁況予報によると、１０～１２月の国内太平洋沿岸へのスルメイカ来遊量は前年並みから前年を下回りそうだ。海域別では、北海道東太平洋海域と常磐―三陸海域でいずれも前年を下回ると見込む。

予報は８～９月に行った調査と、７～８月を中心とする漁況を基にした。道

東太平洋海域では漁場形成は散発的となる見通しで、常磐―三陸海域は１０～１２月を通じて漁場となるとみている。魚体はいずれも前年並みと予報している。

根室海峡―オホーツク海では来遊量、魚体ともに前年並みとなり、漁期の中心は前年同様に１０月までと予想される。津軽海峡―道南太平洋海域への来遊は前年並みで、魚体は前半（１０月～１１月中旬）は前年並み、後半（１１月中旬～１２月）は前年より大きいと見込む。

同機構によると、２００７年以降の国内太平洋側の年間漁獲量は７万～１６万トンで推移していたが、１８年は１・７万トンまで減少。２０年は１９年並みの２・２万トンとなり改善傾向がみられたが、同機構は「今年７～８月の漁獲量は前年を下回り、９月も集計中だが暫定的に前年を下回っている。今シーズンを通しての漁獲は前年並みか前年を下回るのでは」とみている。

水産経済新聞（１０月６日）

ソデイカ漁で指示（沖縄）　禁漁期間と漁具制限

沖縄海区漁業調整委員会は、ソデイカ漁の禁漁期間と漁具制限を定める委員会指示を出した。禁漁期間は延縄、旗流し漁業ともに１０／１－１１／３０、６／１－９／３０

また、両漁業ともに操業区域や針数、旗数などの制限を行った。

水産経済新聞（１０月８日）

中国漁船　EEZ 内で激減　退去勧告８～９月は１８隻

水産庁は５日日本海大和堆周辺水域における外国漁船の対応状況を発表した。９月３０日現在で退去勧告を行った中国漁船は延べ５８２隻だが、８月に入ってからは１８隻に留まっている。これは日本の EEZ 外に漁業が形成されたとの見方を示し、今後の魚群の動向次第では再び大挙して侵入する可能性もあると緊張感を漂わせているのが現状。

みなと新聞（１０月８日）

生鮮スルメイカ　９月４割減産２６３６トン　１１年以降で最低、羅臼は３倍

漁業情報サービスセンターによると、９月の全国主要漁港水揚量（速報値）は前年同月比４２％減の２６３６トンで、２０１１年以降の９月で過去最少となった。同センターは「資源量が大幅に減少した上、夏場の高水温で日本海の沖合ではロシア水域まで一気に北上した群れが多かったのでは」と推測する。

主要漁港のうち水揚量が最多の八戸（青森）は５割減の９５７トン、宮古（岩手）は３割減の４６０トン、石巻（宮城）は５割減の３５７トンだった。三陸では禁漁期間を終えた沖合底引網漁が９月から操業を開始した。同センターは「八戸で１００トンを超える日もあり、石巻も１日２０～３０トンと沖底は好

調だ」と捉える。
　道東の羅臼では８月末から小型イカ釣漁が始まり、多い日では１３隻が操業した。一時高水温の状態が続いたが、低気圧の通過で９月中旬以降は高水温の状態は解消。根室半島沖から根室海峡の羅臼に群が来遊し、羅臼には３倍の２０８トンが水揚げされた。

以　上

第23回シーフードショーに「全いか」ブースを6コマ出展します！

是非、ご来場ください。
ご来場の際は、以下のURL(シーフードショー公式ホームページ)より、来場登録を行ってからご来場ください。
https://www.seafood-show.com/japan/visit/

会　期　2021年11月8日(月)～11月10日(水)

時　間　10:00～17:00 ※ 最終日のみ16:00まで

会　場　東京国際展示場“東京ビッグサイト”南展示棟　東京都江東区有明3-11-1
ゆりかもめ　東京ビッグサイト駅（下車 徒歩約3分）

Ⅰ．令和３（２０２１）年７月　全国イカ水揚集計表（全漁連）

単 月　7月　　単位　数量：トン　単価：円／ｋｇ

種　類	２０２１年７月						２０２０年７月					
	生鮮		冷凍		合計		生鮮		冷凍		合計	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
スルメイカ	**1,697**	**908**	**713**	**621**	**2,410**	**823**	**3,601**	**524**	**311**	**619**	**3,912**	**532**
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＳＡイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アカイカ	0	0	1,588	444	1,588	444	0	0	3,614	385	3,615	385
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他イカ（トビイカ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　計	1,697	908	2,301	499	3,998	672	3,601	524	3,925	404	7,527	461
輸　入					7,462						8,068	
合　計	1,697		2,301		11,460		3,601		3,925		15,595	

累 計　1月～7月　　単位　数量:トン　単価:円/Kg

種　類	２０２１年１月～７月						２０２０年１月～７月					
	生鮮		冷凍		合計		生鮮		冷凍		合計	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
スルメイカ	**6,159**	**733**	**1,903**	**643**	**8,062**	**712**	**11,862**	**533**	**1,374**	**930**	**13,236**	**574**
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＳＡイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アカイカ	1	319	1,634	438	1,635	438	4	222	3,693	386	3,697	386
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他イカ（トビイカ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　計	6,160	733	3,537	548	9,697	666	11,866	533	5,067	534	16,933	533
輸　入					50,329						46,814	
合　計	6,160		3,537		60,026		11,866		5,067		63,747	

資料:全漁連,財務省貿易統計

Ⅱ.いか輸入　国別通関実績　令和３（２０２１）８月

（１）冷凍いか（除くもんごう）

国名		令和３年８月合計		令和３年１月～８月累計		令和２年８月合計		令和２年１月～８月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	5,448	4,261	60,432	45,037	1,228	1,725	130,646	114,719
2	中国	3,808,513	2,310,766	27,534,739	16,638,579	3,364,141	1,949,049	27,725,171	17,492,381
3	台湾	122,263	49,030	456,382	181,252	0	0	72,340	33,499
4	香港	0	0	0	0	0	0	0	0
5	ベトナム	204,700	246,793	1,594,423	1,743,633	255,552	276,611	1,942,002	2,029,711
6	タイ	100,227	148,917	969,373	1,273,329	70,223	88,227	1,432,392	1,972,779
7	マレーシア	1,130	708	28,935	24,404	5,856	6,725	42,599	40,768
8	フィリピン	74,061	98,821	467,422	606,486	97,722	120,981	626,262	778,136
9	インドネシア	56,386	84,529	327,129	431,711	44,795	54,249	319,254	365,953
10	カンボジア	0	0	0	0	0	0	0	0
11	ミャンマー	23,228	27,707	183,518	215,563	39,221	58,781	142,314	170,810
12	インド	75,825	87,509	652,770	729,513	101,778	102,753	805,846	886,793
13	パキスタン	7,180	13,281	35,478	66,263	0	0	1,994	3,803
14	スリランカ	0	0	66,034	65,879	0	0	139,518	161,980
15	イラン	0	0	0	0	0	0	0	0
16	オマーン	0	0	0	0	0	0	0	0
17	デンマーク	0	0	0	0	0	0	0	0
18	英国	0	0	0	0	0	0	0	0
19	フランス	0	0	0	0	0	0	0	0
20	スペイン	0	0	0	0	0	0	0	0
21	ロシア	292,752	106,453	4,483,455	1,646,536	43,110	38,508	2,369,707	1,136,415
22	ギリシャ	0	0	0	0	0	0	0	0
23	アメリカ	110,380	51,076	1,802,790	738,016	309,894	124,166	2,787,529	1,170,835
24	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
25	パナマ	0	0	0	0	0	0	0	0
26	カナダ	0	0	61,930	19,406	0	0	156,560	54,768
27	セントビンセント	0	0	0	0	0	0	0	0
28	エクアドル	0	0	0	0	0	0	0	0
29	ペルー	2,095,533	342,900	10,843,062	1,892,343	1,993,592	463,798	6,506,887	1,683,115
30	チリ	1,277,956	179,288	6,010,605	897,751	1,529,835	346,346	7,241,101	1,686,756
31	ウルグアイ	0	0	0	0	0	0	0	0
32	アルゼンチン	421,845	126,547	3,047,881	1,028,329	983,318	476,818	2,653,339	1,252,478
33	フォークランド諸島及びその付属諸島	25,430	26,353	110,151	118,245	0	0	127,803	105,468
34	モロッコ	0	0	82,474	65,890	4,872	4,876	115,996	155,288
35	カナリー諸島（西）	0	0	0	0	0	0	0	0
36	モーリタニア	326	492	326	492	0	0	0	0
37	ガーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
38	セネガル	9,810	1,461	9,810	1,461	0	0	0	0
39	ソマリア	0	0	0	0	0	0	0	0
40	南アフリカ共和国	0	0	0	0	0	0	0	0
41	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0	0
42	パプアニューギニア	0	0	0	0	0	0	0	0
43	ニュージーランド	49,633	18,586	262,398	104,400	1,200	1,643	320,871	140,942
合計		8,762,626	3,925,478	59,091,517	28,534,518	8,846,337	4,115,256	55,660,131	31,437,397

Ⅱ.いか類輸入　国別通関実績　令和３（２０２１）年８月

（２）乾燥・塩蔵・塩水漬け

国　名		令和３年８月合計		令和３年１月～８月累計		令和２年８月合計		令和２年１月～８月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	0	0	0	0	0	0	0	0
2	中国	191,520	341,820	915,872	1,757,303	200,439	382,775	1,391,945	2,738,493
3	台湾	0	0	0	0	0	0	0	0
4	ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0
5	タイ	6,900	36,835	77,820	403,389	1,790	7,924	53,710	270,117
6	フィリピン	0	0	0	0	0	0	0	0
7	インドネシア	2,025	8,208	2,025	8,208	0	0	5,485	29,981
8	スペイン	0	0	0	0	0	0	95	540
9	イタリア	0	0	0	0	0	0	0	0
10	カナダ	6,200	18,128	6,200	18,128	0	0	0	0
11	アメリカ	0	0	29,860	60,332	0	0	18,032	36,653
12	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ロシア	0	0	0	0	0	0	0	0
14	ペルー	0	0	4,720	4,968	12,880	18,578	49,120	69,027
15	アルゼンチン	0	0	0	0	0	0	0	0
16	ニュージーランド	0	0	0	0	0	0	590	4,530
合　計		206,645	404,991	1,036,497	2,252,328	215,109	409,277	1,518,977	3,149,341

Ⅱ．いか類輸入　国別通関実績　令和３（２０２１）年８月

（３）調製品

国　名		令和３年８月合計		令和３年 １月～８月累計		令和２年８月合計		令和２ １月～８月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	6,280	7,625	37,924	42,896	5,120	7,697	43,657	67,557
2	中国	4,026,044	2,410,957	28,730,864	17,074,359	3,441,754	2,179,657	26,174,660	16,348,990
3	台湾	0	0	396	438	0	0	0	0
4	ベトナム	28,247	27,995	540,217	343,678	77,735	53,574	516,216	321,316
5	タイ	65,608	88,663	580,617	848,958	43,694	72,706	298,363	810,605
6	シンガポール	0	0	0	0	0	0	0	0
7	マレーシア	0	0	0	0	0	0	4,130	1,989
8	フィリピン	0	0	0	0	0	0	0	0
9	インドネシア	0	0	0	0	0	0	20,504	10,713
10	ミャンマー	0	0	0	0	0	0	0	0
11	インド	0	0	0	0	0	0	8,040	4,339
12	スリランカ	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ノルウェー	0	0	0	0	0	0	0	0
14	スイス	0	0	0	0	0	0	0	0
15	ポルトガル	0	0	0	0	0	0	0	0
16	スペイン	0	0	12,183	24,477	1,114	1,612	6,527	15,187
17	イタリア	0	0	70	206	0	0	0	0
18	アメリカ	0	0	0	0	0	0	0	0
19	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ペルー	88,032	28,142	528,097	176,986	625,388	337,065	1,151,587	576,397
21	チリ	0	0	0	0	2,040	1,003	2,040	1,003
22	アルゼンチン	0	0	0	0	0	0	0	0
23	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0	0
24	ニュージーランド	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計		4,214,211	2,563,382	30,430,368	18,511,998	4,196,845	2,653,314	28,225,724	18,158,096

Ⅲ．農林水産統計

１.産地水産物流通統計　令和３（２０２１）年７月

（1）月別上場水揚量・価格

年　月	するめいか 生		するめいか 冷・近		するめいか 冷・遠		あかいか 生		あかいか 冷		合計
	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	
平成25(2013)年	78, 239	253	28, 532	349	705	238	29	112	2, 196	422	109, 701
平成26(2014)年	73, 735	249	24, 933	337	157	331	0	184	4, 652	348	103, 477
平成27(2015)年	54, 391	257	22, 294	378	484	279	2	244	2, 995	318	80, 166
平成28(2016)年	23, 583	519	19, 911	641	797	398	2	249	3, 162	479	47, 455
平成29(2017)年	18, 703	543	17, 056	602	—	—	7	333	4, 112	541	39, 878
平成30(2018)年	15, 153	530	11, 133	611	—	—	1	355	4, 632	481	30, 919
令和元(2019)年	16, 776	658	2, 647	860	—	—	5	220	7, 152	455	26, 580
令和２(2020)年	18, 009	526	3, 990	781	—	—	11	205	7, 228	364	29, 238
平成28年　１月	1, 233	323	1, 948	429	—	—	0	67	3	391	3, 184
平成28年　２月	789	360	1, 144	465	—	—	1	192	—	—	1, 934
平成28年　３月	731	397	1, 297	488	—	—	1	281	3	233	2, 029
平成28年　４月	375	417	—	—	—	—	0	234	—	—	375
平成28年　５月	518	350	50	518	797	398	0	216	—	—	1, 365
平成28年　６月	904	325	37	380	—	—	—	—	—	—	941
平成28年　７月	1, 243	382	1, 911	410	—	—	0	216	1, 272	413	4, 426
平成28年　８月	3, 953	425	2, 316	508	—	—	0	216	1, 882	525	8, 151
平成28年　９月	7, 419	471	1, 807	657	—	—	0	214	1	124	9, 227
平成28年　１０月	3, 064	716	2, 781	786	—	—	0	290	—	—	5, 845
平成28年　１１月	1, 736	854	3, 327	899	—	—	0	264	0	454	5, 063
平成28年　１２月	1, 618	823	3, 293	731	—	—	0	323	1	188	4, 912
計	23, 583		19, 911		797		2		3, 162		47, 452
平成29年　１月	410	692	958	752	—	—	0	251	1	570	1, 369
平成29年　２月	279	602	231	835	—	—	0	441	39	486	549
平成29年　３月	190	525	376	840	—	—	0	383	482	582	1, 048
平成29年　４月	109	442	28	863	—	—	1	184	0	398	138
平成29年　５月	272	386	23	857	—	—	0	108	13	539	308
平成29年　６月	1, 399	429	7	536	—	—	—	—	—	—	1, 406
平成29年　７月	2, 606	515	1, 455	480	—	—	—	—	1, 684	557	5, 745
平成29年　８月	2, 780	583	2, 335	632	—	—	5	333	1, 892	517	7, 012
平成29年　９月	4, 225	568	3, 060	633	—	—	0	236	—	—	7, 285
平成29年　１０月	3, 378	556	4, 928	572	—	—	0	192	0	383	8, 306
平成29年　１１月	1, 693	509	2, 369	545	—	—	0	417	0	415	4, 062
平成29年　１２月	1, 362	546	1, 286	598	—	—	0	525	0	443	2, 648
計	18, 703		17, 056		0		6		4, 111		39, 876
平成30年　１月	744	539	330	659	—	—	0	414	—	—	1, 074
平成30年　２月	399	439	864	649	—	—	0	350	621	532	1, 884
平成30年　３月	200	487	18	600	—	—	0	340	4	438	222
平成30年　４月	186	421	8	600	—	—	0	256	0	385	194
平成30年　５月	308	390	62	663	—	—	0	358	—	—	370
平成30年　６月	884	420	21	594	—	—	—	—	96	428	1, 001
平成30年　７月	867	455	519	539	—	—	—	—	3, 124	466	4, 510
平成30年　８月	1, 288	540	1, 105	573	—	—	—	—	605	518	2, 998
平成30年　９月	4, 219	493	3, 527	588	—	—	—	—	182	458	7, 928
平成30年　１０月	2, 641	591	2, 324	597	—	—	0	719	0	387	4, 965
平成30年　１１月	2, 226	609	1, 087	649	—	—	0	324	—	—	3, 313
平成30年　１２月	1, 191	584	1, 268	694	—	—	0	251	0	343	2, 459
計	15, 153		11, 133		0		0		4, 632		30, 918
平成31年　１月	382	580	192	685	—	—	0	140	—	—	574
平成31年　２月	525	534	658	697	—	—	0	220	34	529	1, 217
平成31年　３月	302	551	2	761	—	—	2	245	—	—	306
平成31年　４月	193	578	—	—	—	—	2	268	—	—	195
令和元年　５月	220	382	—	—	—	—	—	—	—	—	220
令和元年　６月	596	395	—	—	—	—	0	393	—	—	596
令和元年　７月	1, 090	458	380	608	—	—	0	5	3, 658	505	5, 128
令和元年　８月	2, 277	507	128	723	—	—	—	—	4	602	2, 409
令和元年　９月	2, 999	646	486	939	—	—	0	77	3, 028	396	6, 513
令和元年　１０月	2, 142	836	117	1, 032	—	—	0	123	425	430	2, 684
令和元年　１１月	4, 238	788	262	1, 281	—	—	0	117	—	—	4, 500
令和元年　１２月	1, 812	665	422	1, 132	—	—	0	22	3	405	2, 237
計	16, 776		2, 647		0		4		7, 152		26, 579
令和２年　１月	645	626	170	1, 094	—	—	0	22	20	424	835
令和２年　２月	403	536	291	1, 034	—	—	0	182	11	443	705
令和２年　３月	397	535	440	1, 035	—	—	4	183	48	488	889
令和２年　４月	179	510	—	—	—	—	4	250	—	—	183
令和２年　５月	1, 025	329	—	—	—	—	1	260	—	—	1, 026
令和２年　６月	879	335	27	516	—	—	1	179	—	—	907
令和２年　７月	829	508	3	674	—	—	0	133	3, 615	386	4, 447
令和２年　８月	1, 667	518	564	662	—	—	—	—	563	389	2, 794
令和２年　９月	3, 696	471	315	708	—	—	0	50	1, 798	330	5, 809
令和２年　１０月	4, 223	563	669	718	—	—	0	64	1, 167	330	6, 059
令和２年　１１月	2, 772	625	870	737	—	—	0	41	6	314	3, 648
令和２年　１２月	1, 294	598	627	685	—	—	0	34	—	—	1, 921
計	18, 009		3, 976		0		10		7, 228		29, 223
令和３年　１月	280	551	444	658	—	—	0	43	16	350	740
令和３年　２月	455	551	398	639	—	—	0	77	—	—	853
令和３年　３月	370	490	317	671	—	—	0	136	13	415	700
令和３年　４月	161	486	—	—	—	—	1	125	0	199	162
令和３年　５月	117	424	—	—	—	—	1	89	—	—	118
令和３年　６月	326	452	—	—	—	—	0	87	—	—	326
令和３年　７月	378	553	763	647	—	—	—	—	1, 654	445	2, 795
計	2, 087		1, 922		0		2		1, 683		5, 694
対前月比(%)	116	122	—	—	—	—	—	—	—	—	857
対前年同月比(%)	46	109	25, 441	96	—	—	—	—	46	116	63

注１：平成２２年１月分調査より、あかいかが調査対象品目となりました。
注２：平成２２年１月分調査より、調査対象漁港数から調査対象市場数に変更
注３：平成２１年度分については調査対象市場数に変更済みです。

Ⅲ. 農林水産統計

１．産地別水産物流通統計　令和３（２０２１）年７月

（２）累積上場水揚量・価格

単位　水揚量：トン　　価格：1kg当たり円

品　　目	累積の上場水揚量			累積の平均価格		
	2021年 １月～７月	2020年 １月～７月	対前年 同期比（%）	2021年 １月～７月	2020年 １月～７月	対前年 同期比（%）
するめいか（生）	2,087	4,353	48	513	454	113
〃　（冷,近海）	1,922	931	206	652	1025	64
〃　（冷,遠洋）	－	－	－	－	－	－
あかいか（生）	2	11	23	100	212	47
あかいか（冷）	1,683	3,694	46	444	386	115
合　計	5,694	8,989	63			

注１：平成２２年１月分調査より、あかいかが調査対象品目となりました。

Ⅲ．農林水産統計

１．産地別水産物流通統計　令和３（２０２１)年７月

（３）漁港別水揚量・価格（令和３年７月）

漁 港		するめいか 生		するめいか 冷、近海		するめいか 冷、遠洋		あかいか 生		あかいか 冷		水揚量
		水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	合　計
1	函館	18	1,194	373	677	—	—	—	—	314	454	705
2	小樽	19	832	—	—	—	—	—	—	—	—	19
3	釧路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
4	稚内	1	248	—	—	—	—	—	—	—	—	1
5	紋別	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
6	網走	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
7	羅臼	1	384	—	—	—	—	—	—	—	—	1
8	根室	54	347	—	—	—	—	—	—	—	—	54
9	歯舞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
10	八戸	44	605	42	809	—	—	—	—	1,340	443	1,426
11	宮古	9	688	—	—	—	—	—	—	—	—	9
12	大船渡	35	674	—	—	—	—	—	—	—	—	35
13	釜石	6	567	—	—	—	—	—	—	—	—	6
14	気仙沼	3	685	—	—	—	—	—	—	—	—	3
15	女川	2	428	—	—	—	—	—	—	—	—	2
16	石巻	3	458	—	—	—	—	—	—	—	—	3
17	塩釜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
18	小名浜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
19	大津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
20	波崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
21	銚子	0	634	—	—	—	—	—	—	—	—	0
22	勝浦（千葉）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
23	三崎	0	987	—	—	—	—	—	—	—	—	0
24	沼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
25	焼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
26	新潟	67	673	—	—	—	—	—	—	—	—	67
27	小木（石川）	—	—	348	596	—	—	—	—	—	—	348
28	奈屋浦	0	452	—	—	—	—	—	—	—	—	0
29	舞鶴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
30	勝浦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
31	串本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
32	境	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
33	浜田	6	421	—	—	—	—	—	—	—	—	6
34	下関	1	357	—	—	—	—	—	—	—	—	1
35	八幡浜	68	420	—	—	—	—	—	—	—	—	68
36	愛南	4	548	—	—	—	—	—	—	—	—	4
37	福岡	1	405	—	—	—	—	—	—	—	—	1
38	唐津	3	251	—	—	—	—	—	—	—	—	3
39	松浦	21	282	—	—	—	—	—	—	—	—	21
40	長崎	7	156	—	—	—	—	—	—	—	—	7
41	佐世保	5	266	—	—	—	—	—	—	—	—	5
42	鶴見	1	508	—	—	—	—	—	—	—	—	1
43	北浦	0	144	—	—	—	—	—	—	—	—	0
44	油津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
45	枕崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
46	山川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
47	鹿児島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
48	那覇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
合計		378	553	763	647	—	—	—	—	1,654	445	2,795

Ⅲ．農林水産統計

２．冷蔵水産物流通統計　令和３（２０２１）年７月

月間入・出庫量及び月末在庫量

単位：トン

品　　目	令和３年７月 月末在庫量			令和３年７月 月間入庫量			令和３年７月 月間出庫量			令和３年７月 月末在庫量			７月末 在庫量	対前年同月比		
	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	前月比 ％	月間 入庫量	月間 出庫量	月末 在庫量
するめいか (まついかを含む)	**16,358**	**14,108**	**2,250**	**2,727**	**1,929**	**798**	**3,477**	**2,748**	**730**	**15,607**	**13,289**	**2,318**	**95**	**96**	**123**	**103**
こういか (もんごういかを含む)	3,126	961	2,165	907	117	790	899	165	734	3,134	912	2,221	100	120	94	114
その他のいか類	27,557	12,403	15,154	5,961	2,365	3,596	6,096	2,050	4,046	27,421	12,718	14,703	100	78	109	97
合　　計	47,040	27,472	19,568	9,594	4,410	5,184	10,472	4,963	5,509	46,162	26,919	19,243	98	86	111	100

注：「対前年同月比」は、前年同月より引き続き調査を行っている工場のみで算出しています。

全国いか組合報第640号 (B)
（非売品）

編集・発行　全国いか加工業協同組合
住　　所　〒113-0034
文京区湯島3丁目14番8号 加田湯島ビル6階
電　　話　03-3834-3731
F　A　X　03-3834-3735
発 行 日　令和3年10月1日
作成協力　株式会社マイトベーシックサービス